

ピノキオ薬局(宇都宮市)店内風景



バーコードで過誤防止

後発品情報提供システムも構築

栃木県内に店舗を展開する「従業員10人、うち薬剤師1人」の調剤過誤防止に向けて、同薬局では様々な形で取り組みを進めてきた。麻薬や抗がん剤、インスリン、血糖降下剤など、薬剤師が教を確認してから帰宅、また再出し確認を積極的に取り、処方せんの正誤を並べてマーカーでチェックしながら、同時に声でも確認する。

要領のあちこちに「類以薬あり」「同種同効薬あり」「長期処方不可」「緊急安全性情報」他規格注意「注意」など色紙の張り紙が貼られている。

同システムは、全ての医薬品にバーコードが貼付され、薬剤師がピノキオシステムを操作し、レセプトの入力データと照合し、万一異なる場合は警告が出る仕組み。

ピノキオ薬局(栃木県宇都宮市)は、調剤過誤防止のためのバーコード調剤システムを全店舗に導入し、調剤過誤防止に全力で取り組んでいる。また先発医薬品と後発医薬品の薬価を簡単に比較できる「後発品情報提供システム」も導入している。

ピノキオ薬局(栃木県宇都宮市)



田中社長
学博士をもち、代表取締役。社長は「もろもろの人の目にある過誤防止の意識は常に必要だ。しかし、かえりて、よるチェック機能で補うことで、薬剤師の負担が軽減される。その分の労力を、服薬指導や情報提供、重複・相互作用の防止に活用する」と説明する。



薬剤師がバーコードをスキャンし、システムで処方せんの入力データと照合する。異なる場合は警告が出る。

3割超す認定取得率 指導薬剤師も奨励

4月から再び処方せんが変更され、後発品使用促進がさらに図策として推し進められる。同薬局では既に、簡単に後発品と先発品の薬価を比較できる「後発品情報提供システム」を導入している。

瞬時に後発品情報提供

1錠当たりどれくらい負担金があるか、負担割合が1割、2割、3割とそれを表示する。同薬局では既に、簡単に後発品と先発品の薬価を比較できる「後発品情報提供システム」を導入している。薬剤師が処方せんに後発品と先発品の薬価を比較できる「後発品情報提供システム」を導入している。

減システム」を構築し、後発品に関する知識が情報提供を行っている。その活用によつて薬剤師の負担を軽減し、その分システムアップなどに力を入れ、日本薬剤師研修センターの認定取得率を3割を超える。

自身も薬学博士をもち、代表取締役。社長は「もろもろの人の目にある過誤防止の意識は常に必要だ。しかし、かえりて、よるチェック機能で補うことで、薬剤師の負担が軽減される。その分の労力を、服薬指導や情報提供、重複・相互作用の防止に活用する」と説明する。

お薬手帳の使い方

お薬手帳の活用方法

お薬手帳の活用方法

お薬手帳の活用方法

店内に貼られたオリジナルのお薬手帳ポスター



棚のあちこちに貼られた注意喚起の張り紙(バーコードで医薬品情報を読み込む)

中では特徴的なものは、教育担当者によるシステム研修を実施していることだ。教育担当が各店舗を回り、一人ひとりの服薬指導状況や薬歴の書き方を発見し、得意不得意を把握し、きめ細かな指導を行っている。田中社長は「薬歴は患者さまの病歴に関する

4月から再び処方せんが変更され、後発品使用促進がさらに図策として推し進められる。同薬局では既に、簡単に後発品と先発品の薬価を比較できる「後発品情報提供システム」を導入している。薬剤師が処方せんに後発品と先発品の薬価を比較できる「後発品情報提供システム」を導入している。

1錠当たりどれくらい負担金があるか、負担割合が1割、2割、3割とそれを表示する。同薬局では既に、簡単に後発品と先発品の薬価を比較できる「後発品情報提供システム」を導入している。